

# ECONOMY TOPICS

## 経済トピックス

2011.11.11

No.411



### 県内企業の業況、緩やかに上昇 (平成23年7～9月期の県内企業業況調査結果)

**調査内容** 平成23年7～9月期の県内企業の業況実績  
平成23年10～12月期の県内企業の業況見通し

**調査時期** 平成23年10月上旬

**調査対象企業** 県内中堅企業241社

**回答企業** 150社(回収率:62.2%)

}	製造業	35社	建設業	29社	卸売業	32社
	小売業	25社	運輸業	10社	サービス業	19社
	青森地区	51社	津軽地区	40社	県南地区	59社

B.S.Iとは

business survey indexの略であり、企業業況判断指標という意味である  
指標の求め方は次の通り

B.S.I=「業況良好企業及びやや良好企業の割合」-「業況不振及び  
やや不振企業の割合」

注:業況判断は前年同期との比較による

# 1. 概 況

平成 23 年 7～9 月期の全産業「業況 BSI」は前期(23 年 4～6 月期)比 1.9 ポイント上昇の△21.6 となった。製造業、卸売業で悪化がみられたものの、建設業が大幅に改善したほか、運輸・サービス業で改善がみられ、緩やかながら 2 期連続の上昇となった。

一方、全産業「採算 BSI」は前期比 17.3 ポイント上昇の△11.0 と大幅に改善し、4 期ぶりに上昇した。運輸・サービス業、小売業で大幅な上昇がみられ、採算悪化の割合は 7 期ぶりに 30%を下回った。

主要 BSI をみると、「生産高 BSI」、「操業度 BSI」はともに上昇した。電子部品・デバイス、精密機械で増産基調が続いているほか、水産加工、窯業・土石、一般機械で増産に転じる動きがみられた。

建設業の「受注高 BSI」は、震災からの復旧・復興需要などにより、好転の動きが広

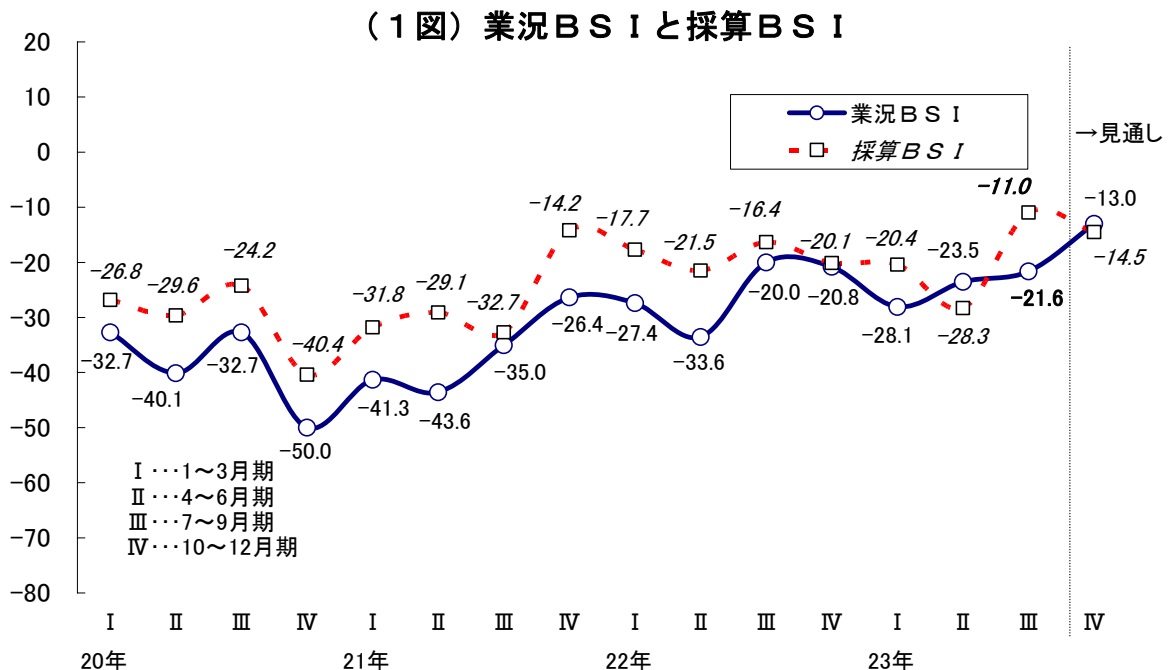
がり、2 期連続で大幅に上昇した。

「売上高 BSI」は、小売業が上昇したものの、卸売業が大幅に落ち込んだほか、運輸・サービス業も低下した。「出荷高 BSI」は鉄鋼、一般機械、電子部品・デバイス、精密機械などで出荷増加が続いている。

「設備投資 BSI」は、製造業が飲料、化学、生コンなどで投資縮小の動きがみられ、全体に低調な動きとなり、大幅に低下した。非製造業は震災復旧関連や店舗取得などの投資がみられ、幾分上昇した。

来期の見通しをみると、全産業ベースでは「業況 BSI」が当期比上昇が見込まれており、「採算 BSI」は幾分低下する見通しである。来期の業況は、卸売業、運輸・サービス業、製造業で改善が見込まれる一方、小売業、建設業では悪化する見通しである。

(以上、1～12 図、1 表 参照)



## 2. 23年7～9月期の業況

### (1) 業況 —建設業が大幅に改善、全体では2期連続で上昇—

23年7～9月期の全産業「業況BSI」は前期比1.9ポイント上昇の△21.6となった。

業況判断の内訳をみると、業況好転とした企業の割合は前期比2.5ポイント減少の23.6%、一方、業況悪化とした企業の割合は同4.4ポイント減少の45.3%となった。

産業別の「業況BSI」をみると、製造業は前期比4.0ポイント上昇の△5.7となった。水産加工、飲料、パルプ・紙、化学などで業況悪化したものの、砕石、鉄鋼、電子部品・デバイス、精密機械などで業況好転がみられた。

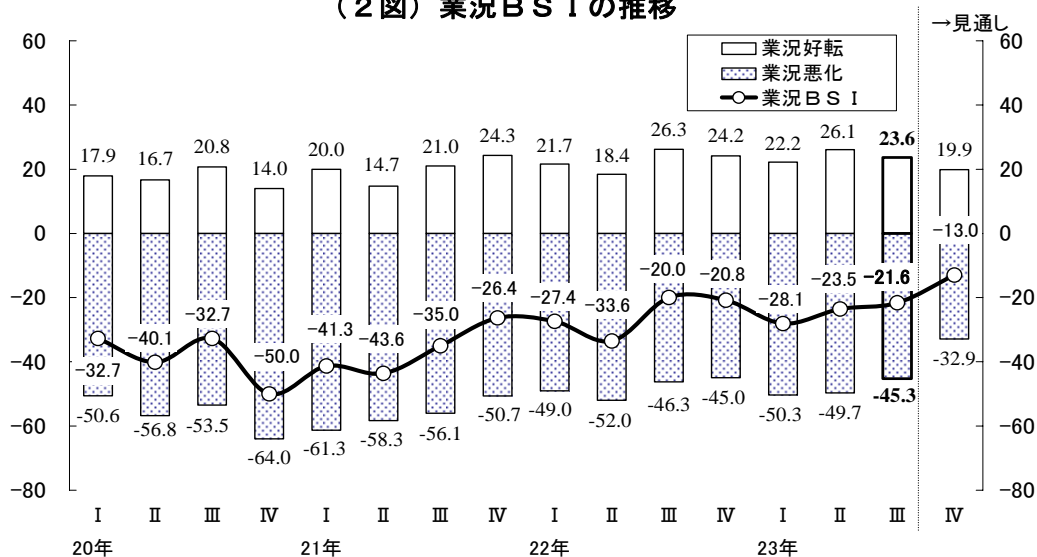
非製造業は、建設業が前期比22.4ポイント上昇の△27.6と大幅に上昇したほか、運輸・サービス業が同4.9ポイント上昇の△34.5となった。一方、卸売業は同28.2ポイント低下の△40.0と大幅に低下し、小売業

は同横バイの±0.0となった。建設業は震災関連の復旧・復興需要などから業況好転とする割合が増加し、悪化割合が減少した。運輸・サービス業は、旅客運送、道路貨物運送で悪化が続いているものの、宿泊で悪化割合が幾分縮小したほか、自動車整備、リース、情報処理などで好転がみられた。卸売業は、建築資材で悪化割合が幾分広がったほか、水産物、青果物、農業機械、燃料で悪化が目立った。小売業はスーパー、燃料で好転がみられた一方で、中古車販売、衣料品などでは悪化がみられた。

当期の「業況BSI」は、卸売業の落ち込みが目立ったものの、震災からの復旧・復興の影響などから建設業で改善がみられ、緩やかながら2期連続の上昇となった。

(以上、2図、付表 参照)

(2図) 業況BSIの推移



(付表) 産業別業況BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
22年 7～9月期	-18.9	-25.0	-3.2	-27.6	-25.7	-20.0
22年 10～12月期	-3.1	-55.6	12.9	-53.8	-15.2	-20.8
23年 1～3月期	-9.7	-53.1	-14.7	-34.8	-30.3	-28.1
23年 4～6月期	-9.7	-50.0	-11.8	0.0	-39.4	-23.5
<b>23年 7～9月期</b>	<b>-5.7</b>	<b>-27.6</b>	<b>-40.0</b>	<b>0.0</b>	<b>-34.5</b>	<b>-21.6</b>
来期見通し	2.9	-28.6	-10.0	-16.0	-17.9	-13.0

## (2) 採算の状況 — 「採算BSI」、4期ぶりに大幅上昇—

23年7～9月期の「採算BSI」は前期比17.3ポイント上昇の△11.0と大幅に改善した。

採算判断の内訳をみると、採算好転企業の割合は前期比4.6ポイント増加の17.8%、一方、採算悪化企業の割合は同12.6ポイント減少の28.8%となった。

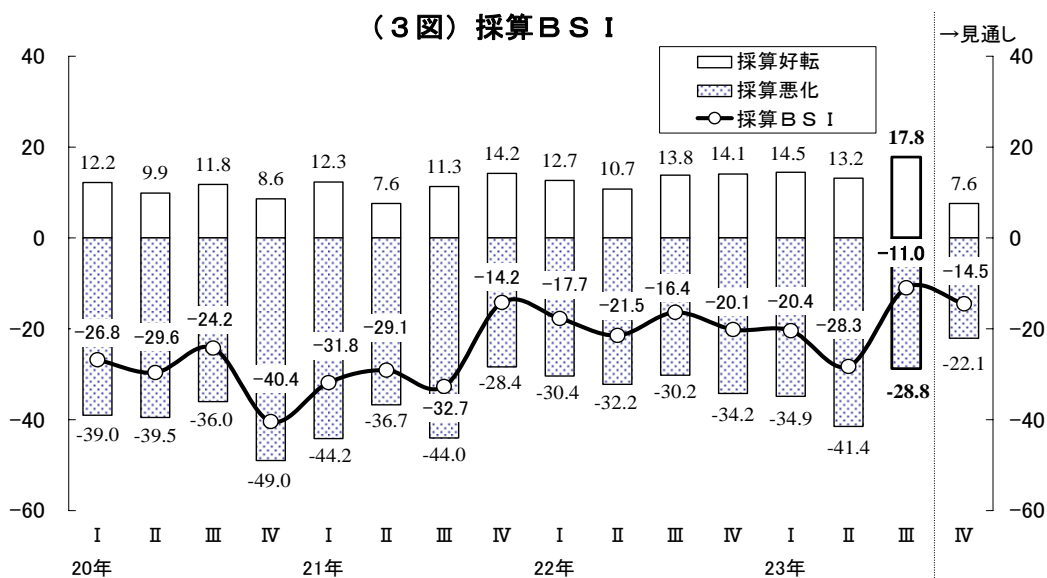
産業別の「採算BSI」をみると、製造業は前期比0.6ポイント低下の△20.6となった。水産加工、一般機械、精密機械で好転がみられた一方、酒類、パルプ・紙、窯業・土石では悪化がみられた。

非製造業は、運輸・サービス業が前期比37.3ポイント上昇の△17.2、小売業が同33.3ポイント上昇の33.3と、それぞれ大幅に上昇したほか、建設業が同10.1ポイント上昇の△28.6、卸売業が同7.7ポイント上昇の△12.9となった。運輸・サービス業は

旅客運送、宿泊関連で悪化とする割合が縮小したほか、リース、情報関連などで好転がみられた。小売業は全体に好転割合が広がり、スーパー、中古車、貨物自動車、燃料で好転が目立った。建設業は好転がみられなかったものの、悪化とする割合が縮小した。卸売業は青果物、紙類などで悪化がみられたものの、建築資材、電気機器、事務機器で好転が目立った。

当期の「採算BSI」は運輸・サービス業で前期の大幅な落ち込みから上昇に転じたほか、小売業が大幅プラスとなるなど、非製造業全体に採算面で改善がうかがわれた。全体では採算悪化とする割合が7期ぶりに30%を下回り、BSIは4期ぶりに大幅に上昇した。

(以上、3図、付表 参照)



(付表) 産業別採算BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
22年7～9月期	-13.9	-32.1	3.2	-17.2	-22.9	-16.4
22年10～12月期	-3.2	-57.7	3.2	-35.7	-15.2	-20.1
23年1～3月期	-16.7	-38.7	-8.8	-4.2	-30.3	-20.4
23年4～6月期	-20.0	-38.7	-20.6	0.0	-54.5	-28.3
<b>23年7～9月期</b>	<b>-20.6</b>	<b>-28.6</b>	<b>-12.9</b>	<b>33.3</b>	<b>-17.2</b>	<b>-11.0</b>
来期見通し	-8.8	-35.7	-19.4	4.2	-10.7	-14.5

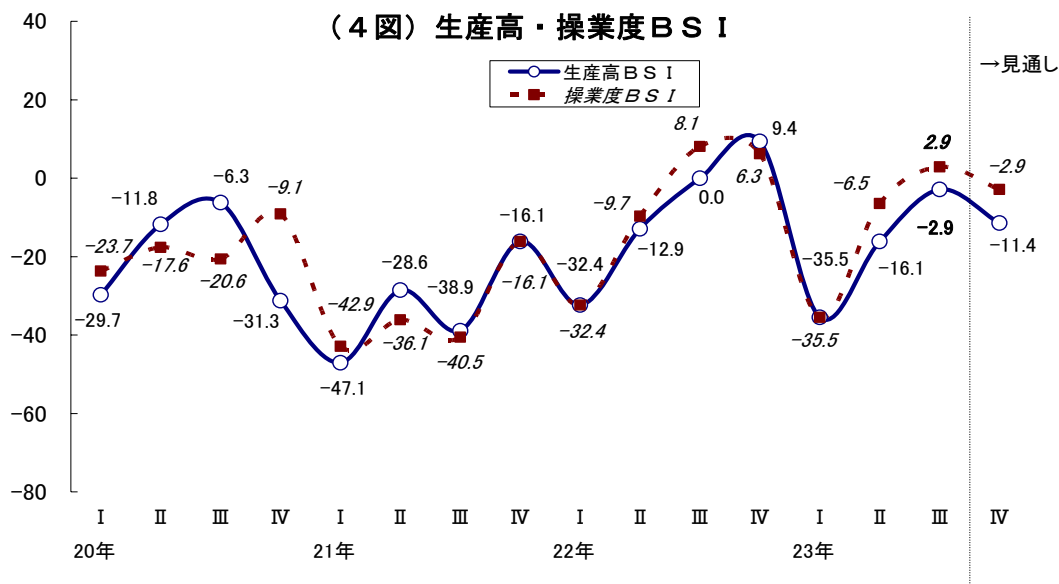
### (3) 生産高・操業度の状況

— 「生産高 BSI」、「操業度 BSI」とともに上昇 —

23年7～9月期の「生産高 BSI」は前期比 13.2 ポイント上昇の△2.9、「操業度 BSI」は同 9.4 ポイント上昇の 2.9 と、ともに上昇した。食料品の酒類、飲料やパルプ・紙、化学などで減産の動きがみられたものの、電子部品・デバイス、精密機器で増産基調が続いているほか、水産加工、窯業・土石、一般機械で増産に転じる動きがみられた。

なお、来期の見通しは「生産高 BSI」が当期比 8.5 ポイント低下の△11.4、「操業度 BSI」は同 5.8 ポイント低下の△2.9 と、ともに低下が見込まれている。水産加工、精密機械の一部で減産に転じる動きが見込まれるほか、パルプ・紙で減産とする割合が拡大する見通しとなっている。

(以上、4 図 参照)



### (4) 受注高の状況

— 震災復旧・復興需要などにより好転の動きが広がる —

23年7～9月期の建設業の「受注高 BSI」は前期比 23.7 ポイント上昇の△13.8 と 2 期連続で大幅に上昇した。

内訳をみると、受注増加とする企業の割合が前期比 5.3 ポイント増加の 24.1%、一方、受注減少とする企業の割合は同 18.4 ポイント減少の 37.9%となった。

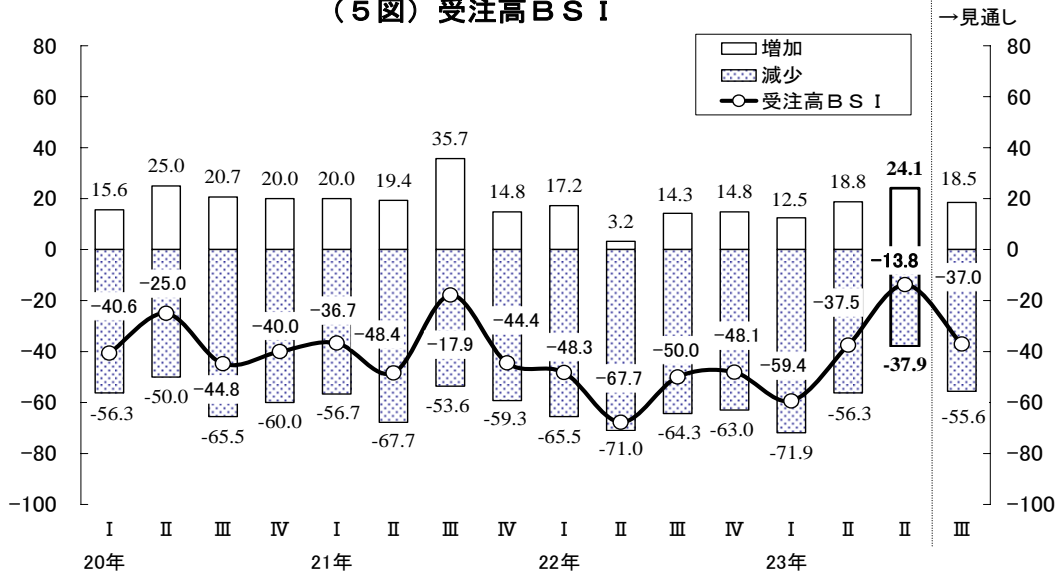
当期は震災からの復旧・復興需要などにより好転の動きが広がり、受注増加とする割

合は 8 期ぶりに 20%を超えた。一方、受注減少とする割合は 12 年 7～9 月期以来 11 年ぶりに 40%を下回った。

来期は受注増加とする企業が 18.5%、受注減少とする企業の割合は 55.6%となり、「受注高 BSI」は当期比 23.2 ポイント低下の△37.0 と、再び落ち込む見通しである。

(以上、5 図 参照)

(5図) 受注高BSI



## (5) 売上高・出荷高の状況

—「売上高BSI」が低下、「出荷高BSI」は上昇—

23年7～9月期の「売上高BSI」は、前期比8.6ポイント低下の△30.6となった。

産業別の「売上高BSI」をみると、小売業が前期比16.5ポイント上昇の4.0となったものの、卸売業は同29.9ポイント低下の△38.7と大幅に落ち込んだほか、運輸・サービス業も同9.3ポイント低下の△51.7となった。

小売業は乗用車、家電などで売上減少がみられるものの、スーパーの増加基調が続いているほか、燃料で増加の動きが目立った。卸売業は建築資材、衣料品、紙類などで減少が続いているほか、事務機器、医薬品で減少に転じる動きがみられた。運輸・サービス業はリース、自動車整備など一部で増加がみられたものの、旅客・貨物運送、宿泊、ゴルフ場などで減少が目立った。

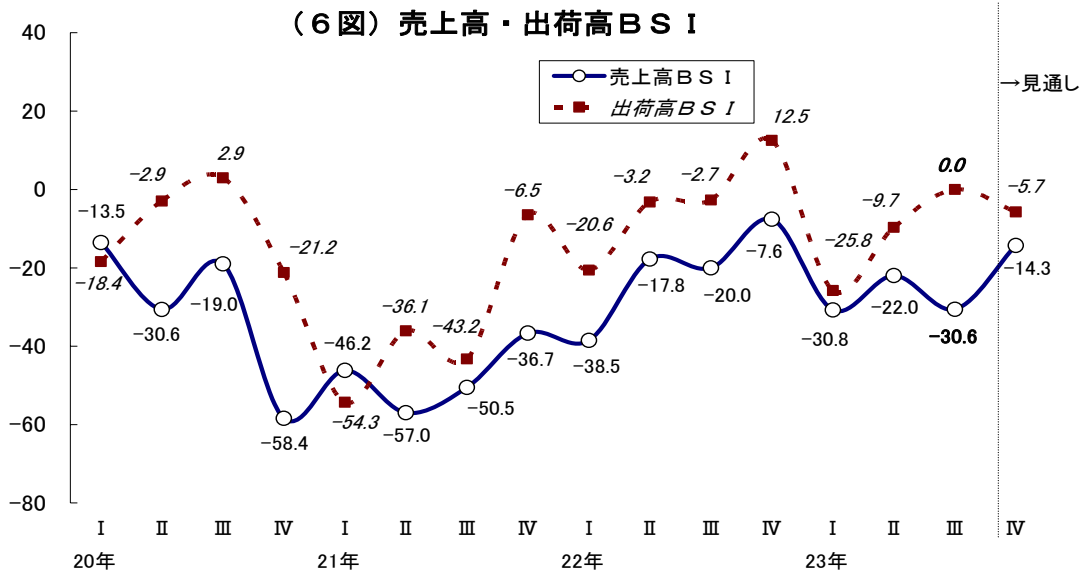
なお、来期の「売上高BSI」は、小売業で低下が見込まれるものの、卸売業、運輸・サービス業では大幅な改善が見込まれており、当期比16.3ポイント上昇の△14.3と再び上昇する見通しである。

製造業の23年7～9月期の「出荷高BSI」は前期比9.7ポイント上昇の±0.0となった。食料品の酒類、パルプ・紙、窯業・土石などで出荷減少がみられたものの、水産加工で増加に転じる動きがみられたほか、鉄鋼、一般機械、電子部品・デバイス、精密機器では増加が続いている。

なお、来期の「出荷高BSI」は、当期比5.7ポイント低下の△5.7と低下が見込まれている。水産加工、窯業・土石で増加とする割合が縮小するほか、飲料や精密機械で減少が見込まれている。

(以上、6図、付表 参照)





(付表) 売上高・出荷高BSIの推移

	出荷高BSI	売上高BSI			
		製造業	卸売業	小売業	運輸・サービス
22年 7～9月期	-2.7	-22.6	-6.9	-28.6	-20.0
22年10～12月期	12.5	16.1	-28.6	-12.1	-7.6
23年 1～3月期	-25.8	-14.7	-54.2	-30.3	-30.8
23年 4～6月期	-9.7	-8.8	-12.5	-42.4	-22.0
<b>23年 7～9月期</b>	<b>0.0</b>	<b>-38.7</b>	<b>4.0</b>	<b>-51.7</b>	<b>-30.6</b>
来期見通し	-5.7	-9.7	-16.0	-17.9	-14.3

(6) 価格の状況 — 仕入・販売の価格ギャップ、幾分拡大 —

23年7～9月期の「仕入単価BSI」は前期比1.4ポイント低下の38.3となり、4期ぶりに低下した。

産業別にみると、製造業が前期比6.2ポイント低下の48.6、非製造業が同0.3ポイント低下の34.1となった。製造業は、食料品の酒類やパルプ・紙、一般機械、造船で仕入単価上昇とする割合が縮小した。

非製造業は、卸売業が同5.7ポイント低下の35.5となった。一方、小売業は同7.2ポイント上昇の28.0、建設業は同0.4ポイント上昇の37.9となった。卸売業は食料品の水産物で仕入単価上昇が続く中、建築資材で上昇とする割合が縮小した。小売業

はスーパー、燃料で上昇の動きがみられた。とする割合が縮小した。

次に、23年4～6月期の「販売単価BSI」は前期比3.5ポイント上昇の△9.4となった。

産業別にみると、製造業が前期比0.8ポイント上昇の△5.7、非製造業は同4.8ポイント低下の△10.5となった。製造業はパルプ・紙、生コン、精密機械などで販売単価低下がみられたものの、鉄鋼、電子部品・デバイスなどで上昇の動きがみられた。

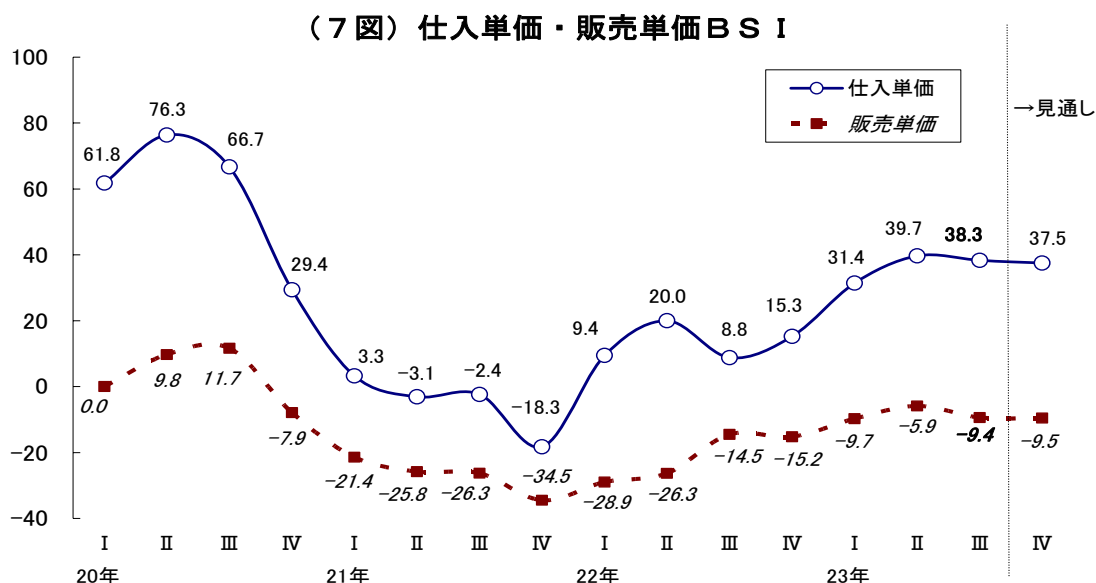
非製造業は、運輸・サービス業が同8.5ポイント低下の△24.1、建設業が同6.4ポイント低下の△34.5、小売業が同4.8ポイント

低下の16.0、卸売業が同2.7ポイント低下の3.2とそれぞれ低下した。運輸・サービス業は貨物運送、宿泊、ゴルフ場などで販売単価低下がみられた。建設業は低下とする割合が拡大した。小売業はスーパー、貨物自動車、燃料で上昇がみられたものの、中古車販売、家電などで低下の動きがみられた。卸売業は食料品の水産物や燃料などで上昇がみられたものの、建築資材で上昇とする割合が縮小した。

価格面の動きをみると、仕入単価 BSI、販売単価 BSIとも前期比低下したが、価格ギャップは建設業、小売業で拡大がみられ、全体でも幾分拡大した。

なお、来期については、「仕入単価 BSI」が当期比 0.8 ポイント低下の 37.5、一方、「販売単価 BSI」は同 0.1 ポイント低下の△9.5 と、全体としてはほぼ当期並みで推移するものと見込まれている。

(以上、7 図、付表 参照)



(付表) 仕入単価 B S I の推移 (上昇-低下)

	製造業	建設業				非製造業	仕入単価 BSI
		建設業	卸売業	小売業	非製造業		
22年 7-9月期	24.3	0.0	0.0	6.9	2.3	8.8	
22年 10-12月期	25.0	0.0	19.4	14.3	11.6	15.3	
23年 1-3月期	38.7	40.6	20.6	25.0	28.9	31.4	
23年 4-6月期	54.8	37.5	41.2	20.8	34.4	39.7	
23年 7-9月期	48.6	37.9	35.5	28.0	34.1	38.3	
来期見通し	57.1	37.9	35.5	12.0	29.4	37.5	

(付表) 販売単価 B S I の推移 (上昇-低下)

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	非製造業	販売単価 BSI
22年 10-12月期	-12.5	-44.4	0.0	-7.1	-15.2	-16.0	-15.2
23年 1-3月期	-9.7	-28.1	-2.9	4.2	-9.1	-9.8	-9.7
23年 4-6月期	-6.5	-28.1	5.9	20.8	-15.6	-5.7	-5.9
23年 7-9月期	-5.7	-34.5	3.2	16.0	-24.1	-10.5	-9.4
来期見通し	2.9	-42.9	16.1	-4.0	-25.0	-13.4	-9.5



## (7) 在庫投資・在庫水準の状況

### —「在庫投資BSI」、製造業、非製造業ともに低下—

23年7～9月期の「在庫投資BSI」は、製造業が前期比5.7ポイント低下の△5.7、非製造業は同14.1ポイント低下の△8.9と、ともに再び低下した。

製造業は、食料の日配品、生コン、一般機械などで積み増しの動きがみられたものの、水産加工、木材・木製品、パルプ・紙で在庫手控えの動きが目立った。非製造業は、卸売業の米穀、電気機器、農業機械などで積み増しの動きがみられたものの、卸売業の水産物、建築資材や小売業の酒類、書籍などで手控えの動きが目立った。

なお、来期の在庫投資BSIは、製造業が当期比5.7ポイント上昇の±0.0、非製造業は同3.5ポイント上昇の△5.4と、ともに手控えの動きが緩むものと見込まれている。

次に在庫水準についてみると、まず製造業の「原材料在庫水準BSI」は前期比7.1

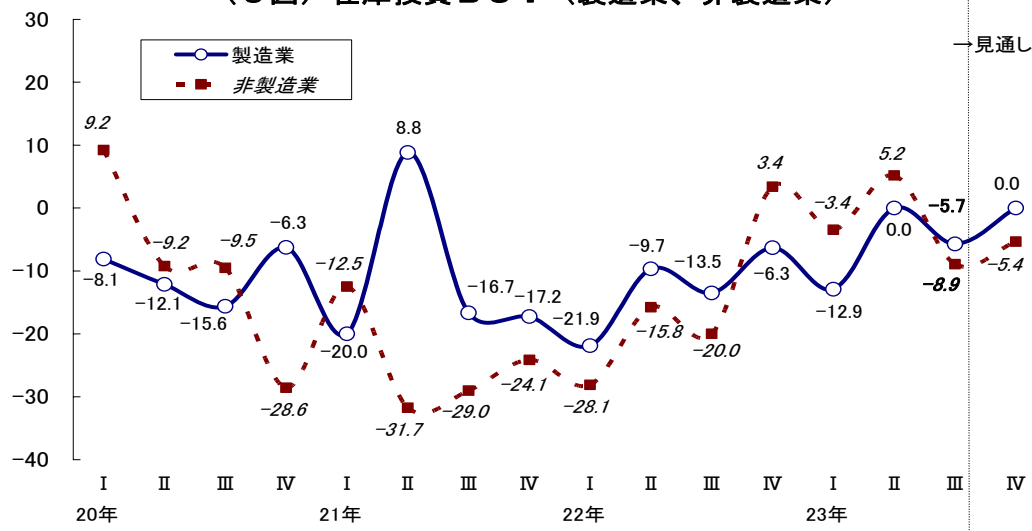
ポイント上昇の△2.9と、ほぼ適正圏内となった。来期は△5.9と幾分不足感が増すものと見込まれている。

一方、「製品・商品在庫水準BSI」は、製造業の製品在庫水準BSIが前期比3.3ポイント上昇の±0.0、卸・小売業の「商品在庫水準BSI」は同1.7ポイント上昇の±0.0となり、ほぼ適正圏内での動きとなった。

製品は水産加工、鉄鋼などで不足感がうかがわれたものの、紙・パルプ、生コンで過剰感がみられた。商品は卸売業の漁業資材、小売の乗用車販売で不足感がみられたものの、卸売業の電気機器、農業機械、小売業の衣料品などでは過剰感がみられた。来期は商品がほぼ適正圏内となる見通しであるが、製品は不足感が増すものとみられる。

(以上、8図、付表 参照)

(8図) 在庫投資BSI (製造業、非製造業)



(付表) 在庫関連BSIの推移

	在庫投資BSI		原材料在庫水準BSI	製品・商品在庫水準BSI	
	製造業	非製造業	製造業	製造業	卸・小売業
22年7～9月期	-13.5	-20.0	-8.3	8.3	3.3
22年10～12月期	-6.3	3.4	-6.5	15.6	15.3
23年1～3月期	-12.9	-3.4	-10.0	0.0	-3.4
23年4～6月期	0.0	5.2	-10.0	-3.3	-1.7
<b>23年7～9月期</b>	<b>-5.7</b>	<b>-8.9</b>	<b>-2.9</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>
来期見通し	0.0	-5.4	-5.9	-11.8	-1.8

## (8) 設備投資の動向

—製造業は前期に比べ低調な動き—

23年7～9月期の「設備投資BSI」は、製造業が前期比19.0ポイント低下の△2.9と大幅に低下した。一方、非製造業は同7.3ポイント上昇の△9.4となった。

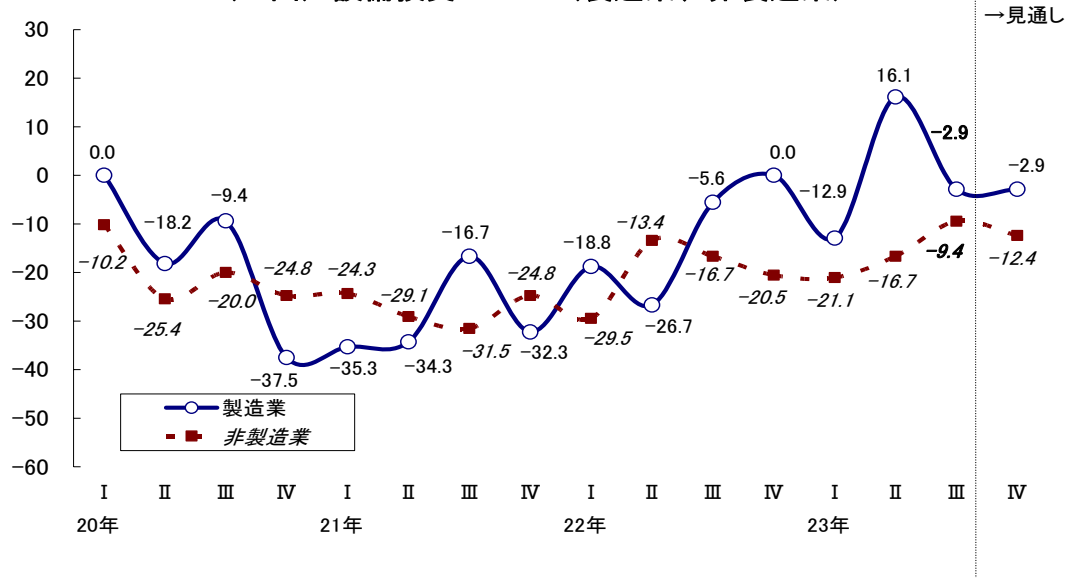
製造業は、日配品で省エネルギー関連投資、鉄鋼で環境対応、既存設備更新投資、水産加工、パルプ・紙、造船で機械・工場の震災復旧関連投資、精密機械で工場、機械の新設・更改などの投資がみられたものの、飲料、化学、生コンなどで投資縮小の動きがみられ、全体としては前期の伸びに比べ低調な動きとなった。

非製造業をみると、建設業は目立った投資がほとんどみられず、低調な動きとなった。

卸売業は衣料品でコンピューター設備更新、紙類で震災関連の設備更新がみられた。小売業はスーパーで店舗取得、改装などの投資がみられた。運輸・サービス業では貨物運送で震災復旧関連の倉庫改修、車両、荷役機械購入などの投資、リースでレンタル資産購入投資、ガス供給ではガス管交換などの投資がみられた。なお、来期の「設備投資BSI」は、製造業が当期比横バイの△2.9となり、非製造業は同3.0ポイント低下の△12.4と見込まれている。

(以上、9図参照)

(9図) 設備投資BSI (製造業、非製造業)



## (9) 企業金融の動向

—「借入金利BSI」が低下、借入難易度、資金繰りは落ち着いた動き—

23年7～9月期の企業金融の動向をみると、「現金・預金BSI」が前期比19.5ポイント上昇の△3.6と大幅に上昇した。また、「借

入金利BSI」は同2.4ポイント上昇の12.5、「資金繰り難易BSI」は同5.4ポイント上昇の△1.4となり、「借入難易BSI」は同0.6ポイ

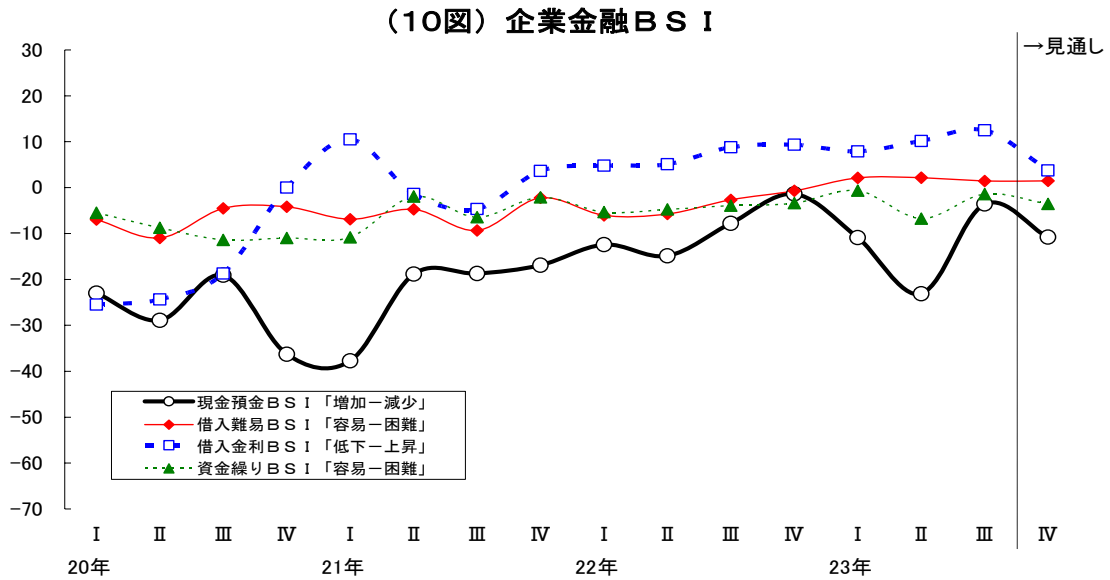
ント低下の 1.5 となった。

当期は手元資金の減少に歯止めがかかった様子が見えられた。借入金利は震災復興支援関連などの影響から低下がみられ、借入難易度、資金繰りは落ち着いた動きと

なった。

なお、来期は手元資金の減少傾向が強まるほか、借入金利が上昇するものとみられる。

(以上、10 図、付表 参照)



(付表) 企業金融BSIの推移

	現金預金BSI (増加-減少)	借入難易BSI (容易-困難)	借入金利BSI (低下-上昇)	資金繰りBSI (容易-困難)
22年 7- 9月期	-7.8	-2.7	8.8	-3.9
22年10-12月期	-1.4	-0.7	9.4	-3.4
23年 1- 3月期	-10.9	2.1	7.9	-0.7
23年 4- 6月期	-23.1	2.1	10.1	-6.8
<b>23年 7- 9月期</b>	<b>-3.6</b>	<b>1.5</b>	<b>12.5</b>	<b>-1.4</b>
来期見通し	-10.8	1.5	3.7	-3.5

## (10) 地区別の状況

### — 県南地区で業況改善 —

23年7~9月期の「業況BSI」を地区別に見ると、津軽地区が前期比 10.3 ポイント低下の△43.6、青森地区が同 1.7 ポイント低下の△12.0 となった。一方、県南地区は同 15.1 ポイント上昇の△15.3 となった。

主要 BSI をみると、まず、「生産高 BSI」

は、県南地区が前期比 36.6 ポイント上昇の 5.3、青森地区が同 1.4 ポイント上昇の 12.5 となった。一方、津軽地区は同 20.8 ポイント低下の△37.5 となった。

「出荷高 BSI」は、県南地区が前期比 19.7 ポイント上昇の△5.3、青森地区が同

15.3ポイント上昇の37.5となった。一方、津軽地区は同8.3ポイント低下の△25.0となった。

「売上高 BSI」は、県南地区が前期比21.9ポイント低下の△45.2、青森地区が同3.5ポイント低下の△21.9となった。一方、津軽地区は同3.4ポイント上昇の△22.7となった。

建設業の「受注高 BSI」は、津軽地区が前期比43.6ポイント上昇の△20.0、県南地区が同27.8ポイント上昇の△22.2となった。一方、青森地区は同横バイの±0.0、となった。

「採算 BSI」は、県南地区が前期比20.2ポイント上昇の△10.2、津軽地区が同18.0ポイント上昇の△20.5、青森地区が同15.1ポイント上昇の△4.2となり、3地区ともに上昇した。

当期の地域別 BSI は、県南地区で「生産高・出荷高・受注高 BSI」が大幅に上昇し、生産面での回復や震災復興関連工事の受注などから業況の改善がみられた。

なお、来期の「業況 BSI」をみると、津軽地区が当期比19.9ポイント上昇の△23.7、県南地区が同10.1ポイント上昇の△5.2と改善が見込まれる一方、青森地区は同2.0ポイント低下の△14.0となる見通しである。主要 BSI をみると、「生産高 BSI」、「出荷高 BSI」は青森地区、津軽地区で上昇し、県南地区は低下が見込まれている。「売上高 BSI」は3地区とも上昇が見込まれている。「受注高 BSI」、「採算 BSI」は3地区とも低下が見込まれている。

(以上、1表参照)

(1表) 地域別 B S I の推移

	業況BSI			生産高BSI			出荷高BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
22年7-9月期	-34.5	-17.4	-8.5	-11.1	11.1	0.0	-11.1	-11.1	5.3
22年10-12月期	-22.6	-34.1	-9.1	-11.1	60.0	5.6	-11.1	100.0	0.0
23年1-3月期	-20.7	-31.6	-33.3	-11.1	-50.0	-43.8	11.1	-33.3	-43.8
23年4-6月期	-10.3	-33.3	-30.4	11.1	-16.7	-31.3	22.2	-16.7	-25.0
<b>23年7-9月期</b>	<b>-12.0</b>	<b>-43.6</b>	<b>-15.3</b>	<b>12.5</b>	<b>-37.5</b>	<b>5.3</b>	<b>37.5</b>	<b>-25.0</b>	<b>-5.3</b>
来期見通し	-14.0	-23.7	-5.2	0.0	-12.5	-15.8	25.0	-12.5	-15.8
	売上高BSI			受注高BSI			在庫投資BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
22年7-9月期	-23.7	-34.6	-3.2	-50.0	-54.5	-44.4	-21.2	-17.4	-14.6
22年10-12月期	-2.6	-40.0	14.3	-28.6	-54.5	-55.6	-2.9	-31.6	18.9
23年1-3月期	-39.5	-36.4	-16.1	-54.5	-45.5	-80.0	5.7	-5.6	-19.4
23年4-6月期	-18.4	-26.1	-23.3	0.0	-63.6	-50.0	20.0	0.0	-11.4
<b>23年7-9月期</b>	<b>-21.9</b>	<b>-22.7</b>	<b>-45.2</b>	<b>0.0</b>	<b>-20.0</b>	<b>-22.2</b>	<b>-16.1</b>	<b>-4.8</b>	<b>-2.6</b>
来期見通し	-18.8	-13.6	-10.0	-40.0	-33.3	-37.5	-9.7	-9.5	5.1
	設備投資BSI			採算BSI			資金繰りBSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
22年7-9月期	-15.1	-16.7	-10.9	-22.2	-19.6	-8.5	-1.9	-16.3	3.6
22年10-12月期	-7.4	-24.3	-19.2	-22.2	-27.5	-12.7	3.7	-12.2	-3.8
23年1-3月期	-14.3	-30.6	-17.0	-5.3	-39.5	-22.8	8.8	-13.9	-1.8
23年4-6月期	-10.7	-25.0	1.9	-19.3	-38.5	-30.4	-1.8	-16.2	-5.6
<b>23年7-9月期</b>	<b>-6.5</b>	<b>-10.5</b>	<b>-7.0</b>	<b>-4.2</b>	<b>-20.5</b>	<b>-10.2</b>	<b>8.5</b>	<b>-12.8</b>	<b>-1.8</b>
来期見通し	-15.2	-18.4	0.0	-8.3	-23.1	-13.8	2.1	-12.8	-1.8

### 3. 経営上の問題点

#### —「競争の激化」がトップ—

経営上の問題点については、「競争の激化」が 62.3%でトップとなった。以下、「売上・受注不振」が 56.8%、「収益低下」が 42.5%、「販売・受注単価低下」が 32.2%、「仕入単価上昇」が 30.1%などと続いた。

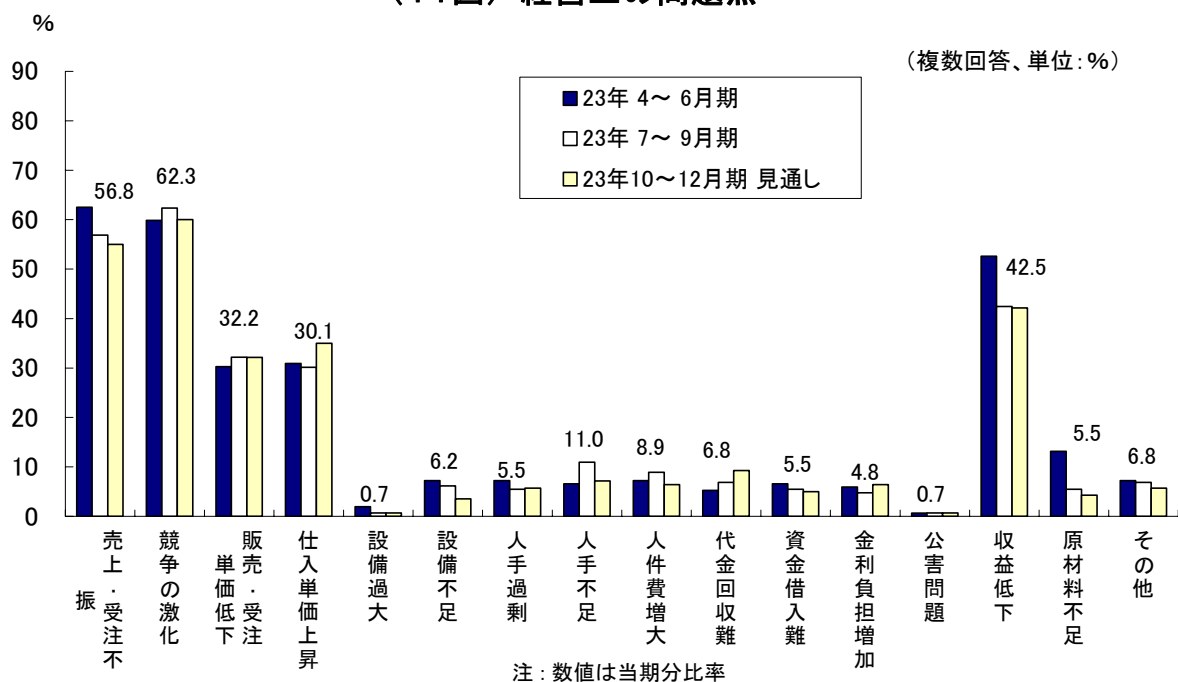
産業別にみると、建設業、卸売業、小売業は「競争の激化」がトップとなり、製造業、運輸・サービス業は「売上不振」がトップとなった。建設業は「競争の激化」が 8 割以上と

なったほか、「売上・受注不振」が 7 割、「収益低下」が 6 割と他産業よりも高い割合となり、経営環境の厳しさがうかがわれた。小売業は「収益低下」が約 1 割と、他産業よりも低い割合となった。

なお、来期の経営上の問題点については、当期とほぼ同じ状況が見込まれる中、幾分仕入単価の上昇が見込まれている。

(以上、11 図、付表 参照)

(11図) 経営上の問題点



(付表) 経営上の問題点

(複数回答、単位：%)

	売上・受注不振	競争激化	販売・受注単価低下	仕入単価上昇	人件費増大	代金回収難	金利負担増加	収益低下
22年 7－9月期	61.4	67.7	35.4	20.3	12.7	5.7	5.1	38.6
22年10－12月期	58.0	70.7	34.7	24.0	10.0	7.3	6.7	42.7
23年 1－3月期	-	-	-	-	-	-	-	-
23年 4－6月期	62.5	59.9	30.3	30.9	7.2	5.3	5.9	52.6
<b>23年 7－9月期</b>	<b>56.8</b>	<b>62.3</b>	<b>32.2</b>	<b>30.1</b>	<b>8.9</b>	<b>6.8</b>	<b>4.8</b>	<b>42.5</b>
来期見通し	55.0	60.0	32.1	35.0	6.4	9.3	6.4	42.1

## 4. 来期の見通し

来期(23年 10～12月期)の「業況BSI」は、全産業ベースで当期比8.6ポイント上昇の△13.0となる見込みである。産業別にみると、卸売業が同30.0ポイント上昇の△10.0、運輸・サービス業が同16.6ポイント上昇の△17.9、製造業が同8.6ポイント上昇の2.9となる見通しである。一方、小売業は同16.0ポイント低下の△16.0、建設業は同1.0ポイント低下の△28.6となる見通しである。

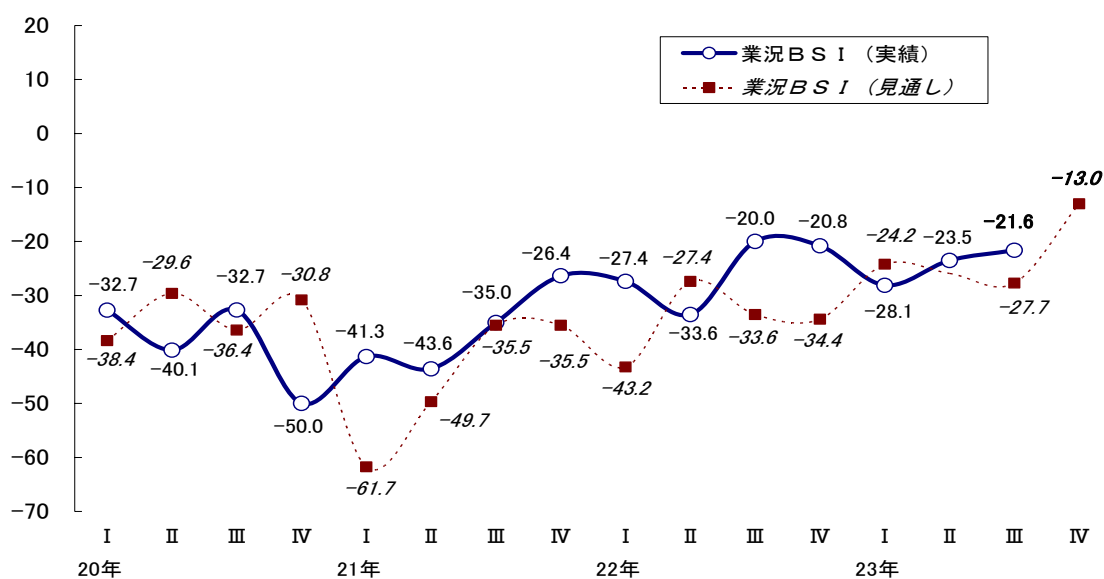
次に「採算BSI」をみると、全産業ベースで当期比3.5ポイント低下の△14.5となる見込みである。産業別にみると、小売業が29.1ポイント低下の4.2、建設業が7.1ポイ

ント低下の△35.7、卸売業が同6.5ポイント低下の△19.4となる見通しである。一方、製造業は同11.8ポイント上昇の△8.8、運輸・サービス業は同6.5ポイント上昇の△10.7となる見通しである。

その他の主要BSIは、「生産高BSI」、「操業度BSI」、「受注高BSI」、「出荷高BSI」は低下に転じる見通しである。一方、「売上高BSI」は再び上昇する見通しとなっている。

(以上、1～12図、付表参照)

(12図) 業況BSIの見通しと実績の推移



(付表) 業況BSI、採算BSIの来期見通し

		製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
業況BSI	23年 7～9月期	-5.7	-27.6	-40.0	0.0	-34.5	-21.6
	来期見通し	2.9	-28.6	-10.0	-16.0	-17.9	-13.0
採算BSI	23年 7～9月期	-20.6	-28.6	-12.9	33.3	-17.2	-11.0
	来期見通し	-8.8	-35.7	-19.4	4.2	-10.7	-14.5

【 本件に関する照会先 】 一般財団法人 青森地域社会研究所  
担当：野里 TEL 017-777-1511